

いぐさ新品種 ‘夕風’ の育成とその特性

A New Mat Rush Cultivar ‘Yuunagi’

深浦壯一・瀧上国弘・飯牟禮和彦・高森幸光・湯野康博
 ・森崎和義・田中伸昭・中澤芳則*・手塚隆久*

Souichi FUKAURA, Kunihiko FUCHIKAMI, Kazuhiko IMURE, Yukimitu TAKAMORI, Yasuhiro YUNO
 , Kazuyoshi MORISAKI, Nobuaki TANAKA, Yoshinori NAKAZAWA * and Takahisa TETSUKA *

要 約

国内いぐさ産地においては、極優良品種 ‘ひのみどり’ が主たる面積を占めているが、その前の収穫時期に適する優良品種として ‘夕風’ を 2005 年に育成した。‘夕風’ は ‘いそなみ’ を母とし ‘沖縄在来’ の自殖第一世代を父とした人工交配により育成された。‘夕風’ は既存の ‘岡山 3 号’ と比較して、部分変色茎が極めて少なく、収量は多い。単位茎数あたりの製織長はより長く、製織された畳表の品質もより優れている。栽培上の留意点としては、遅い植え付けの栽培ほど本田植え付け後の枯死株が発生しやすいので、苗床及び本田の連作及び普通刈栽培を避ける必要がある。また着花が多い欠点があり、早刈栽培においては、先刈高さの調整による花序制御が必要である。

キーワード：いぐさ、品種、育種、夕風、農林番号

I 緒言

熊本県は、2005 年産いぐさ作付け面積が 1,631ha であり、国内いぐさ栽培面積の約 9 割を占める重要ないぐさ産地である。特に、作付けが集中している八代平坦部においては、い（原草）及び畳表は地域農業の基幹作物となっている。

しかし、近年安価な外国産いぐさ及びい製品（畳表）の輸入の急増にともない、国内産地は面積・栽培農家数ともに減少している。

そのような状況下で、熊本県の栽培品種は従来の ‘岡山 3 号’ 等品質的に高級畳表には不向きな品種から、高級畳表用 ‘ひのみどり’ へと作付けの転換が図られ、2005 年産の作付け割合では ‘ひのみどり’ が 36.7 % を占めるまでに至った。

しかし、普通刈向けの ‘ひのみどり’ 単一の品種では全ての作期栽培に対応できないため、その前後の早刈及び遅刈の作期に適した高品質新品種の導入が強く要望されていた。

そこで、良質の原草を生産できる早刈向け新品種 ‘夕風’ を育成したので、その概要を報告する。

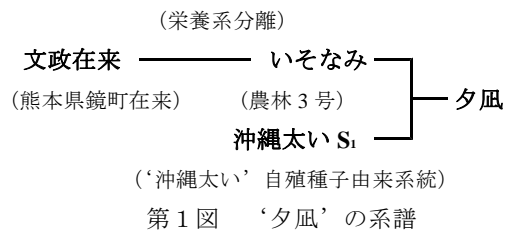
なお、本品種の育種は農林水産省いぐさ育種指定試験地事業として行われた。

II 育成経過

1 来歴

‘夕風’ の系譜を第 1 図に示す。

‘夕風’ は、1991 年に熊本県農業研究センターい業研究所（農林水産省いぐさ育種指定試験地）において ‘いそなみ’ を母とし沖縄県由来の ‘沖縄太い’ の自殖個体 (S₁) を父とし、人工交配により育成された系統である。



2 選抜経過

‘夕風’ の選抜経過を第 1 表に示す。

1993 年（収穫年、以下同じ）に個体選抜を実施し、‘KC101106’ の系統名を付与し以後の選抜を実施した。1994 年に系統選抜試験、1995 年に生産力検定予備試験、1996 年から生産力検定本試験を実施した。1996 年に広島県（現地選抜圃）および福岡県（系統適応性検定試験）での試験成績が良好であったことから 1997 年に ‘有明 5 号’ の地方番号を付し、関係各県に配布した。1997 年以降は育成地における生産力検定試験で収量・品質並びに栽培特性等を調査するとともに、現地試験を含む奨励品種決定試験に供試し、地域適応性を検討した。

*現：(独)九州沖縄農業研究センター

以上が‘夕風’の来歴および育成地における育成経過である。

‘夕風’は部分変色茎が極めて少なく、単位本数当たりの製織長が既存の‘岡山3号’より長く、また畳表の耐摩耗性が強い新品種候補として、2005年7月‘いぐさ農林8号夕風’で農林水産省にて命名登録され、同月

品種登録出願を経て2007年2月に品種登録された。その間2006年3月には熊本県の奨励品種に採用された。品種名‘夕風’は畳表の莖面の色合いがやや深い緑であることから夕暮れの静かな水面のイメージを表している。

第1表 ‘夕風’の選抜経過

交配	1991年			1992年	1993年	1994年	1995年	1996年		1997年	1998年～	
	採種	播種	選抜	個 体 数 供 試	選 抜	供 試 選 抜	供 試 選 抜	系 統 数		供 試 選 抜	供 試 選 抜	
番号	粒数	粒数	粒数					供 試	選 抜			供 試
熊交 91-01	412	395	395	393		106	37	7	3	3	1	1
	-----			128	42	7	3	-----		1	1	1
	交配			個体選 抜試験	KC101-106	系統選 抜試験	生産力 検定予 備試験	生産力 検定本 試験	‘有明 5号’			

注) 数字は、熊交91-01に由来する供試個体数(系統数)または選抜個体数(系統数)。12月に移植、翌年7月に収穫し選抜する。

III 特性の概要

‘夕風’は‘岡山3号’と比較して、以下の特性を持つ。

1 形態的特性

草型は同じ‘中間型’である。茎長はほぼ同じ‘やや短’である。茎の太さは同じ‘細’に分類される。太さの整否はより大きく‘やや大’である。生茎の色はより濃く‘やや濃緑’である。乾茎の色はより暗く‘中’である。一株有効茎数は同程度の‘やや多’である。一株の長茎数は同じ‘中’に属する。乾茎の硬さ(硬度)はより硬く‘硬’である(第2表)。

第2表 形態的特性調査成績

品種名	夕風	岡山3号	いそなみ
草 型	中間型	中間型	中間型
茎 長	やや短	やや短	やや長
茎の太さ	細	細	中
太さの整否	やや大	中	中
生茎の色	やや濃緑	緑	やや濃緑
乾茎の色	中	やや明	やや明
1株有効茎数	やや多	やや多	中
1株の長茎数	中	中	中
乾茎の硬さ	硬	やや軟	やや硬

注1)「昭和57年度種苗特性分類調査報告書(種類名:いぐさ)」(昭和58年3月)による。原則として育成地での観察・調査に基づいて分類した。以下、同様である

注2) 太字は当該特性について標準品種となっていることを示す。以下同様である。

2 生態的特性

1m乾茎重はより重く‘やや軽’である。長茎乾重はより重く‘やや重’である。有効乾茎重はより重く‘や

や重’である。長茎乾重率は同じ‘中’に属する。生育期の花序の着生は多いが、収穫物の花序着生率はほぼ同程度で、花房の多少は‘かなり少’である。自然受粉による稔性は‘可稔’である。部分変色茎は極めて少ない(第3表)。

第3表 生態的特性調査成績

品種名	夕風	岡山3号	いそなみ
1m乾茎重	やや軽	軽	やや軽
長茎乾重	やや重	中	やや重
有効乾茎重	やや重	中	中
長茎乾重率	中	中	中
花房の多少(注)	かなり少	かなり少	やや少
(稔性)	可稔	可稔	可稔
部分変色茎	極少	中	多

注)「花房の多少」は「いぐさ関係用語及び調査基準で(九州農業試験研究推進会議農産推進部会いぐさ分科会;平成12年3月)」では「花序の着生率」に相当する。本文では「花序の着生(率)」を用いる。

3 加工的特性

‘夕風’は茎が硬く(第2表)、単位本数当たりの製織長が長く、摩耗強度の強い畳表が加工できる。畳表の色調は‘岡山3号’よりやや緑みが強くやや暗い(第4表)。

第4表 加工的特性調査成績

品種名	夕風	岡山3号	いそなみ
製織長	やや長	中	中
耐摩耗強度	やや強	中	中
畳表色調	やや暗い	中	中

4 生育・収穫物及び特性調査成績

育成地において、熊本県耕種基準に準じ 1996 年から 2004 年まで普通刈栽培（以下普通刈と略す）及び 2002 年から 2004 年まで早刈栽培（以下早刈と略す）において生産力検定本試験を実施した。また、2001 年から 2003 年にかけて現地圃場において調査を行った。収穫物は、茎長の長さで「105cm 以上 120cm 未満」および「120cm 以上」に選別し、「岡山 3 号」を標準品種に用い、「いそなみ」（普通刈のみ）、「ひのみどり」を比較品種とした。なお、本田植付後に「夕風」で枯死株の発生が「岡山 3 号」「いそなみ」より多く認められることもあったので、補植して試験を実施した。

普通刈りでは、生育途中の花序の多少は「岡山 3 号」より多く、生茎色は「岡山 3 号」より濃く「いそなみ」と同じ「やや濃緑」である（第 5 表）。収穫物の花序の着生は「岡山 3 号」並で、60cm 以上茎数（有効茎数）は「岡山 3 号」とほぼ同じ「やや多」、105cm 以上茎数（長茎数）も「岡山 3 号」とほぼ同じ「中」である（第 2 図、第 6 表）。60cm 以上茎重（有効乾茎重）は「岡山 3 号」「いそなみ」より多く、105cm 以上茎重（長茎乾重）は「岡山 3 号」より多く「いそなみ」と同程度である（第 7 表）。茎の太さは「岡山 3 号」「いそなみ」よりやや細く、硬度（茎の硬さ）は「岡山 3 号」「いそなみ」より硬い（第 8 表、第 9 表）。部分変色茎は「岡山 3 号」より少ない（第 19 表）。加工した畳表の製織長は「岡山 3 号」「いそなみ」より長く、先枯れが少なく「岡山 3 号」と同等以上の品質で（第 8 表、第 9 表）、耐摩耗性が優れる（第 22 表）。

早刈りでは、生育途中の花序の多少は「岡山 3 号」より多く、生茎色は「岡山 3 号」より濃い「やや濃緑」で

ある（第 12 表）。収穫物の花序の着生は「岡山 3 号」より多く、60cm 以上茎数（有効茎数）および 105cm 以上茎数（長茎数）は「岡山 3 号」とほぼ同じかやや多い（第 13 表）。60cm 以上茎重（有効乾茎重）および 105cm 以上茎重（長茎乾重）は「岡山 3 号」より多い（第 14 表）。茎の太さは「岡山 3 号」よりやや細く、硬度（茎の硬さ）は「岡山 3 号」より硬い（第 15 表、第 16 表）。部分変色茎は岡山 3 号より少ない（第 19 表）。引張り強さは「岡山 3 号」と同等から優れる（第 20 表）。

加工した畳表の製織長は「岡山 3 号」「いそなみ」より長く、先枯れおよび元白が少なく「岡山 3 号」より品質が優れている（第 15 表、第 16 表）。

普通刈りおよび早刈栽培試験の耕種概要を第 11 表および第 17 表に示した。

現地における調査においても「岡山 3 号」より多収で硬度が硬く部分変色茎が少ない（第 18 表）。



第 2 図 「岡山 3 号」「夕風」「いそなみ」

第 5 表 普通刈栽培生育調査

品種名	茎長 (cm)	茎数 (本/株)	先枯程度	花 序		生茎色	株枯率 (%)
				多少	大きさ		
夕 風	67	92	中	多	中	やや濃緑	9.0
岡山 3 号(標準)	57	101	中	少	小	緑	6.1
いそなみ (比較)	60	98	中	中	小	緑	2.5
ひのみどり(参考)	60	122	(小)	(微)	(小)	(淡緑)	1.7

第 6 表 普通刈栽培収穫物調査

品種名	茎長 (cm)	茎数 (本/株)			花序着生率 (%)	
		60cm以上	105cm以上	120cm以上	105cm以上	120cm以上
夕 風	135	147	68	33	0.5	0.1
岡山 3 号(標準)	135	143	61	27	0.7	0.2
いそなみ (比較)	140	137	70	37	1.7	0.6
ひのみどり(参考)	132	172	64	26	0.1	0.0

第7表 普通刈栽培収量調査

品種名	茎重 (kg/a)			対標準比 (%)			長茎乾重率 (%)
	60cm以上	105cm以上	120cm以上	60cm以上	105cm以上	120cm以上	
夕 風	135.0	76.6	39.4	111	119	133	56.2
岡山3号(標準)	120.9	64.4	30.5	100	100	100	52.9
いそなみ(比較)	121.3	76.0	44.7	101	120	164	62.4
ひのみどり(参考)	(129.7)	60.7	27.0	(104)	94	83	(44.7)

第8表 普通刈栽培特性調査 (105-120cm)

品種名	1m乾茎重 (g/100本)	茎の太さ (mm)	太さの整否 (%)	硬度 (%)	製織長 (cm/300本)	品質(暈表)		
						先枯れ	元白	品位
夕 風	35.2	1.26	11.8	74.3	12.5	3.2	3.0	3.0
岡山3号(標準)	33.9	1.30	10.7	65.2	11.6	3.0	3.0	3.0
いそなみ(比較)	33.7	1.29	11.3	67.0	11.8	2.9	2.9	2.6
ひのみどり(参考)	29.4	1.20	9.4	(67.6)	(10.1)	(3.0)	(3.4)	(3.5)

注1) 茎長が105cm~120cmの収穫物を供試

注2) 硬度は室温 20℃相対湿度 60%で 300g の荷重を 10 秒間かけたときの茎の直径の変化を調査した数値。

(加重後径/加重前径) × 100 で算出、120cm 以上の茎で調査、数値の大きいものが硬い。

注3) 品質は、'岡山3号(標準)'を 3 : 中 とした5段階評価

1 : 不良 2 : やや不良 3 : 中 (岡山3号) 4 : やや良 5 : 良

第9表 普通刈栽培特性調査 (120cm以上)

品種名	1m乾茎重 (g/100本)	茎の太さ (mm)	太さの整否 (%)	硬度 (%)	製織長 (cm/300本)	品質(暈表)		
						先枯れ	元白	品位
夕 風	38.1	1.29	9.3	76.7	12.9	3.3	3.1	3.4
岡山3号(標準)	(37.8)	1.34	8.7	70.9	12.6	3.0	3.0	3.0
いそなみ(比較)	37.8	1.33	9.0	71.5	12.7	3.1	2.9	2.8
ひのみどり(参考)	32.1	1.2	8.0	(72.1)	(10.5)	(3.2)	(3.5)	(3.7)

注1) 茎長が120cm以上の収穫物を供試

注2) 平成13年の'岡山3号'の1m乾茎重は、供試サンプルが少ないため測定していない。

注3) 硬度は室温 20℃相対湿度 60%で 300g の荷重を 10 秒間かけたときの茎の直径の変化を調査した数値。

(加重後径/加重前径) × 100 で算出、120cm 以上の茎で調査、数値の大きいものが硬い。

注4) 品質は、'岡山3号'(標準)を「3 : 中」とした5段階評価

1 : 不良 2 : やや不良 3 : 中 (岡山3号) 4 : やや良 5 : 良

第10表 種苗特性分類に従った特性調査

品種名	茎重 (g/株)		1m乾茎重 (g/100本)	茎の太さ (mm)	太さの整否 (%)
	60cm以上	105cm以上			
夕 風	48.6	27.6	36.5	1.27	10.7
岡山3号(標準)	43.5	23.2	35.9	1.32	10.0
いそなみ(比較)	43.7	27.4	35.9	1.32	10.3
ひのみどり(参考)	(46.7)	21.9	30.4	1.20	(8.8)

注1) 「いぐさ種苗特性分類調査基準」に単位、調査区分を準拠して調査した成績。

第11表 普通刈栽培耕種概要

産年	植付期 (月日)	先刈時期 (月日)	収穫期 (月日)
1996-1997, 1999-2004	12. 8-21	5. 2-13	7. 8-17

注1) 1998年は異常気象年のため集計から除外した。

注2) 3区制・栽植密度は 18 × 20cm・植付本数は 8 本/株・N 総施肥量は 45kg/10a・先刈高さは 45cm・染土はパール染土を使用。

その他の耕種概要は熊本県いぐさ栽培耕種基準に準拠。

注3) 収穫年度で表記しているので、植付期は前年の月日。

第12表 早刈栽培生育調査

品種名	茎長 (cm)	茎数 (本/株)	先枯程度	花序		生茎色	株枯率 (%)
				多少	大きさ		
夕 風	58	98	少	多	小	やや濃緑	3.7
岡山3号(標準)	46	89	少	少	小	緑	5.4
ひのみどり(参考)	50	116	少	無	---	淡緑	1.5

第13表 早刈栽培収穫物調査

品種名	茎長 (cm)	茎数(本/株)			花序着生率 (%)
		60cm以上	105cm以上	120cm以上	
夕 風	137	144	74	39	1.5
岡山3号(標準)	132	142	60	30	0.8
ひのみどり(参考)	132	173	78	35	0.1

第14表 早刈栽培収量調査

品種名	茎重(kg/a)			対標準比(%)			長茎乾 重率(%)
	60cm以上	105cm以上	120cm以上	60cm以上	105cm以上	120cm以上	
夕 風	142.7	91.2	59.5	115	123	144	63.7
岡山3号(標準)	126.6	76.6	45.6	100	100	100	59.8
ひのみどり(参考)	123.3	69.9	36.0	99	91	72	55.7

第15表 早刈栽培特性調査(105-120cm)

品種名	1m乾茎重 (g/100本)	茎の太さ (mm)	太さの整否 (%)	硬度 (%)	製織長 (cm/300本)	品質(畳表)		
						先枯れ	元白	品位
夕 風	35.3	1.33	10.7	69.1	12.7	3.2	3.2	3.2
岡山3号(標準)	33.5	1.37	10.9	61.3	12.3	3.0	3.0	3.0
ひのみどり(参考)	27.3	1.17	9.3	55.0	9.6	3.5	3.6	4.0

注1) 茎長が105cm~120cmの収穫物を供試。

注2) 硬度は室温20℃相対湿度60%で300gの荷重を10秒間かけたときの茎の直径の変化を調査した数値。

(加重後径/加重前径)×100で算出、120cm以上の茎で調査、数値の大きいものが硬い。

注3) 品質は、'岡山3号(標準)'を3:中とした5段階評価(1:不良2:やや不良3:中(岡山3号)4:やや良5:良)

第16表 早刈栽培特性調査(120cm以上)

品種名	1m乾茎重 (g/100本)	茎の太さ (mm)	太さの整否 (%)	硬度 (%)	製織長 (cm/300本)	品質(畳表)		
						先枯れ	元白	品位
夕 風	40.6	1.41	9.4	82.2	14.8	3.7	3.3	3.4
岡山3号(標準)	38.5	1.45	8.6	71.8	14.1	3.0	3.0	3.0
ひのみどり(参考)	31.2	1.26	7.4	64.3	11.3	3.5	3.6	4.2

注1) 茎長が120cm以上の収穫物を供試。

第17表 早刈栽培耕種概要

産年	植付期 (月日)	先刈時期 (月日)	収穫期 (月日)
2002-2004	11.28-29	4.22-28	6.24-29

注1) 3区制・栽植密度は18×20cm・植付本数は8本/株・N総施肥量は43kg/10a・先刈高さは45cm・染土はパール染土を使用。その他の耕種概要は熊本県いぐさ栽培耕種基準に準拠。

注2) 収穫年度で表記しているの、植付期は前年の月日。

第18表 現地における調査成績

現地名	品種名	茎長 cm	120cm以上茎			
			茎重 kg/a	花序着 生率 %	硬度 %	部分変色 萎率 %
錦町	夕風	137	41.3	0.1	74.1	1.0
	岡山3号	136	37.4	0.5	72.1	2.0
八代市	夕風	144	63.9	0.3	69.8	1.0
	岡山3号	144	53.8	3.6	63.7	3.0
岡原村	夕風	145	79.9	0.3	66.8	1.5
	岡山3号	146	61.7	2.0	56.7	2.5
	きよなみ	147	69.7	2.3	61.2	3.0
あさぎり町	夕風	134	36.4	0.0	74.3	1.0
	きよなみ	140	47.4	0.1	61.8	2.0

注) 錦町・八代市・岡原村は2001-02年調査平均値、あさぎり町は2003年調査値。

第19表 部分変色茎率 (%)

品種名	普通刈栽培		早刈栽培	
	105-120	120cm	105-120	120cm
	cm	以上	cm	以上
夕 風	1.5	2.6	0.8	0.1
岡山3号 (標準)	42.7	34.6	21.5	16.7
いそなみ (比較)	53.3	57.8	31.9	24.7
ひのみどり (参考)	1.7	4.3	2.3	0.7

注1) 2003-04産の平均値。
 注2) 「いぐさ関係用語及び調査基準 (九州農業研究推進会議 水田作推進部会いぐさ分科会平成12年3月)」に準ずる。
 耕種概要は第Ⅲ-10・16表と同じ。

第20表 引張り強さ (単位: kg)

品種名	茎長区分		
	97~110cm	110~120cm	120cm以上
夕 風	6.6	7.2	7.8
岡山3号 (標準)	5.7	6.5	7.9
ひのみどり (参考)	4.9	5.6	6.8

注1) 2003年産の早刈栽培で収穫した茎を供試。
 注2) 茎の中央部から長さ30cmの供試サンプルを調整し、引張り試験器で切断したときの最大強度測定後、茎の断面積比より、茎径を1.3mmに換算補正した引っ張り強さ。

第21表 畳表の色調調査

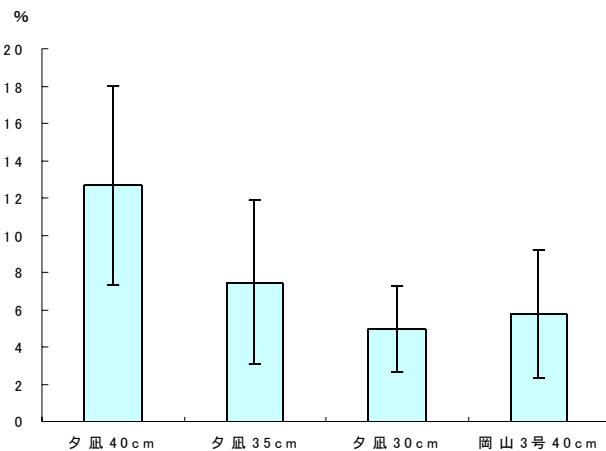
品種名	産年	105-120cm			120cm以上		
		L*	a*	b*	L*	a*	b*
夕 風	2002	48.56	-11.30	13.14	48.38	-11.65	13.12
	2003	50.32	-10.60	13.17	49.95	-10.83	13.06
	2004	49.33	-9.47	13.03	---	---	---
	平均	49.40	-10.46	13.11	49.17	-11.24	13.09
岡山3号 (標準)	2002	49.15	-11.43	13.56	49.22	-11.52	13.92
	2003	50.44	-10.43	13.52	50.69	-10.59	13.72
	2004	49.83	-9.91	13.82	---	---	---
	平均	49.81	-10.59	13.63	49.96	-11.06	13.82

注1) 早刈栽培の原料いぐさで加工した畳表を供試。
 注2) 染土は「三原染土」と「ひのみどり専用染土」を1:1で混合して使用。
 注3) 色差計測機器「ミノルタCR-331C」で「L*a*b*表色系」モードにより畳表の中央部分を測定。
 L*: 明度。数値が大きいかほど明るい色を示す。
 a*: 色相 (緑-赤)・数値が小さいほど緑色、0は灰色、大きいほど赤色であることを示す。
 b*: 色相 (青-黄)・数値が小さいほど青色、0は灰色、大きいほど黄色であることを示す。

第22表 畳表の摩耗による減厚量 (単位: mm)

品種名	畳表中央部				畳表両端部			
	250回	500回	750回	1000回	250回	500回	750回	1000回
夕 風	0.120	0.150	0.173	0.197	0.217	0.273	0.313	0.350
岡山3号 (標準)	0.167	0.194	0.224	0.247	0.297	0.400	0.477	0.550
ひのみどり (参考)	0.120	0.153	0.180	0.200	0.293	0.377	0.430	0.480

注1) 「いぐさ関係用語及び調査基準 (九州農業研究推進会議水田作推進部会いぐさ分科会平成12年3月)」に準拠。
 注2) 2005年産普通刈栽培の105~120cm原料いぐさで加工した他畳表の中央部位を供試。
 注3) カustom式織物摩耗試験器により摩擦した結果の減厚の量。



第3図 早刈栽培における先刈り高さの違いによる長茎花序着生率

注1) 調査年: 2005-07年
 注2) 栽培法は県耕種基準に基づく。

IV 考察

‘夕風’は在来種からの分離により育成された‘いそなみ’を母本とし、沖縄での在来種‘沖縄太い’の自殖第1代個体群(S_i)の中での細い茎の個体を父本とした由来個体から育成されている。花粉親は、着花が極多で茎が太く茎数が少ない等多くの形質において、九州中国地域での主要品種である‘岡山3号’や‘いそなみ’等とは大きく異なる。従来交配においては両親の形質が似ており後代での形態分離の変異幅が狭いことが育種の可能性を狭めていたが、この点本組合せにおいては後代分離幅の拡大が図られている。

本品種は良質多収・早生・機械化適応性を目標に人工交配を行ったが、育成過程において、極良質畳表生産用の原草向け品種‘ひのみどり’の導入が推進されていたことから、品質に関して既存の‘岡山3号’より優れる中価格帯の畳表の品質向上を目標に選抜育成した。

本品種は部分変色茎が極少なく、明らかに‘岡山3号’より品質が向上しており、変色茎の除去作業を省略できる。さらに、単位本数当たり製織長が‘岡山3号’より長いことから畳一枚を製織する時間は短い。これらの

特徴から、作業効率の向上が可能である。また、茎の硬度が高く畳表の耐摩耗性が強い点で従来の品種に無い特色がある。

本品種は花序の着生が年により多発するという短所がある。これは両親特に父方由来の形質であり、花序分化への低温要求性が他の品種より少ないことなどが考えられるが、今後の研究が必要である。なお、着生茎の発芽時期は‘岡山3号’より7日ほど早くかつ期間は短い。このことに着目して先刈りの時期や高さを調整することにより花序を制御することが可能であり、本品種を栽培する際には注意が必要である(第3図)。更に、本品種は‘岡山3号’同様本田移植後に枯死株の多発が観られることがあるので、圃場の連作を回避する必要がある。なお、遅い植え付けの栽培においては植え付け後の枯死株の発生が懸念されるので、本品種は暖地の早刈栽培向きに適する。

なお、品種の種苗特性分類基準による特性一覧を付表1に、育成従事者と従事期間を付表2に示した。

Summary

A new mat rush cultivar ‘Yuunagi’ registered as Rush Norin 8 was bred at Rush Research Institute (Kumamoto Prefectural Agricultural Research Center) in 2005. This cultivar was selected from a crossing between ‘Isonami’ and S_i of ‘Okinawafutoi’ in 1991.

The morphological characteristics of this cultivar are as follows. The length of stem is ‘Rather short’, almost same ‘Okayama No.3’, a little longer than ‘Hinomidori’. The number of long stems per plant is more than ‘Okayama No.3’. The dry weight of long stems is more than ‘Okayama No.3’ and ‘Hinomidori’. The dry weight of one meter stems is a little heavier than ‘Okayama No.3’ and is heavier than ‘Hinomidori’. The thickness of stem is a little thin than ‘Okayama No.3’ and fatter than ‘Hinomidori’.

At flowering stage the number of inflorescence is more than ‘Okayama No.3’. At harvesting stage it is more than ‘Okayama No.3’ in early harvesting culture, and is same in middle harvesting culture. The hardness of dry stem is ‘Hard’, is harder than that of ‘Okayama No.3’ and ‘Hinomidori’. The number of partially discolored stems is less than ‘Okayama No.3’, and is same as ‘Hinomidori’.

The characteristics of tatami mat used this cultivar are as follows. The length of tatami mat weaved under the same number of stems is longer than ‘Okayama No.3’ and ‘Hinomidori’. The tatami mat resistibility to the sandpaper is stronger than ‘Okayama No.3’, and a strong table can be woven. The tatami mat made from ‘Yuunagi’ is more beautiful than ‘Okayama No.3’ and ‘Isonami’. ‘Yuunagi’ is recommended as a promising cultivar of Japan.

Key words : rush, cultivar, breeding, Yuunagi, Norin-No.

付表1 いぐさ種苗特性分類調査基準に基づく特性一覧

品種名		夕風		岡山3号 (標準品種)		いそなみ (基準品種)	
形質		階級	区分	階級	区分	階級	区分
1	草型	5	中間型	5	中間型*	5	直立型
3	茎長	4	やや短	4	やや短*	6	やや長
4	茎の太さ	3	細	3	細*	5	中
5	太さの整否	6	やや大	5	中*	5	中
6	生茎の色	6	やや濃緑	5	緑*	6	やや濃緑
7	乾茎の色	5	中	4	やや明*	4	やや明
9	1株有効茎数	6	やや多	6	やや多*	5	中
10	1株の長茎数	6	中	5	中*	5	中
11	1m乾茎重	4	やや軽	3	軽*	4	やや軽
12	長茎乾重	6	やや重	5	中*	6	やや重
13	有効乾茎重	6	やや重	5	中*	5	中
14	長茎乾重率	5	中	5	中	4	やや低
16	花房の多少	2	かなり少	2	かなり少*	4	やや少
19	(稔性)	7	可稔	7	可稔*	7	可稔
20	乾茎の硬さ	7	硬	4	やや軟*	6	やや硬

注1) 「昭和57年度種苗特性分類調査報告書(種類名: いぐさ)」(昭和58年3月)による。

注2) *印は当該特性について「九州・沖縄」での標準品種になっていることを示す。

付表2 ‘夕風’育成従事者名

試験年度	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16
試験名	交配	実生 養成	個体 選別	系統 選抜	生検 予備	本試								
深浦壯一										○	○	○	○	○
淵上国弘												○	○	○
飯牟禮和彦	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
中澤芳則					○	○	○	○	○					
手塚隆久	○	○	○	○										

また、村上敦・早水秀一・下田哲郎が研究補助員として育成に従事した。